

熊本市江津湖遺跡群出土の平安時代火葬骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：熊本県、平安時代人骨、火葬骨、少量

はじめに

一般国道57号熊本東バイパスの拡幅工事に伴う江津湖遺跡群の発掘調査が、2004(平成16)年におこなわれ、江津湖東 - III - A区から平安時代の火葬骨が検出された。報告書によれば、調査区内に構築されていたコンクリート製の埋設物近辺で土師器椀類と越州窯系の合子がみつき、この地点で炭化物と骨片が検出されたという(熊本県教育委員会「江津湖遺跡群 健軍京塚下遺跡」96頁、2008)。発見時、骨片は容器に入った状態では検出されていない。土師器は壊れていたが、この土師器に火葬骨が入っていたかは定かではない。2点の土師器椀と越州窯系の合子は副葬品なのかもしれない。

熊本県の古代人骨については、熊本市が調査をおこなった二本木遺跡群第18次調査区(松下、2005)、第28次調査区(松下・他、2008a)、第31次調査区(松下・他、2012a)、第32次調査区L地点(松下・他、2009)、第35次調査区、第40次調査区F地点(松下・他、2010a)、第41次調査区(松下・他、2010b)、第49次調査区(松下・他、2012b)、第50次調査区(松下・他、2011)、第97次調査区、第104次調査区(松下真実・他、2021)、第105次調査区のほかに、熊本県教育委員会が実施した二本木遺跡群(市電敷地)(松下真実・他、2012a、2012b)、二本木遺跡群(さつま荘跡)(松下・他、2012c)、二本木遺跡群(春日地区第6次調査)(松下真実・他、2012c)でも古代人骨が出土している。二本木遺跡群以外では、新屋敷遺跡(松下・他、2013、松下真実・他、2016)、古町遺跡群第5次調査区(松下、2007b)、上代遺跡群第5次調査区、大江(学苑住宅)遺跡群(松下、2006)、大江遺跡群63次調査区(松下・他、2016)、同第97次調査区(松下、2007a)、桑鶴遺跡(06 - I b区)(松下・他、2015)からも古代人骨がみついている。

これらの遺跡のうち、火葬骨が出土しているのは、大江(学苑住宅)遺跡群、大江遺跡群63次調査区、桑鶴遺跡(06 - I b区)の3遺跡である。大江(学苑住宅)遺跡群からは重量にして約790g、大江63次調査区からは約637g、桑鶴06 - I b区からは約390gの火葬骨が蔵骨器から検出されている。大江(学苑住宅)、桑鶴06 - I b区、大江63次はともに9世紀の所産と推測されている。被葬者の性別が特定されたのは、桑鶴06 - I b区と大江63次の2例のみで、両者はともに若い女性骨であった。

大江(学苑住宅)遺跡群では、竪穴住居(SB39)の床に倒置された状態で検出された甕から3体分の火葬骨が検出された。もっとも量が多いのが軟部組織が残っている状態で火葬された骨である(性別・年齢は不明)。大部分は四肢骨の細片であるが、第二頸椎(軸椎)の左側部も残存していた。そのほかに男女各1体の大腿骨片が存在した。この2点の大腿骨片は骨になってから火を受けたものである。



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Etsuko sites, Kumamoto City, Kumamoto Prefecture)

大江遺跡群（学苑住宅）の例のように蔵骨器に複数体の火葬骨が埋納されていたケースは非常に珍しい例である。

大江 63 次調査区で検出された火葬骨は、須恵器の短頸壺の蔵骨器に収められていた。残存していたのは 1 体の壮年女性の火葬骨で、頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片のほかに椎骨（軸椎）と肋骨がごく一部と歯根数本が残存していた。四肢骨は上腕骨遠位部（左）、上腕骨体の一部（右）、寛骨の一部（右）、大腿骨体片（右）、脛骨体片（左）、膝蓋骨（右）、腓骨体片（左）が残存しており、上腕骨遠位部（左）は原形を保っていた。また、手の骨と足の骨のそれぞれ一部（末節骨 3 点、中節骨 3 点など）と足の骨の一部（左側第一中足骨、末節骨 1 点など）が認められた。

桑鶴遺跡（06 - I b 区）では壺内から、成年～壮年の比較的若い女性 1 体分の火葬骨（SI - 01 人骨）が検出されている。残存していたのは頭蓋骨片、下顎骨片、四肢骨片（左側上腕骨片、大腿骨片、脛骨片）、椎骨片、歯根である。

大江（学苑住宅）遺跡群と大江 63 次調査区で検出された火葬骨のなかに、第二頸椎が見いだされた。第二頸椎は俗に「のどぼとけ」と称される骨であるが、筆者らはこの第二頸椎がいつ頃から意識的に埋納されるようになったかを追究してきた。最初にこの「第二頸椎」を確認したのは山口県周東町の上久宗遺跡（松下、1995）で、この火葬骨は 10 世紀の人骨であった。次に遭遇したのは、熊本市の大江（学苑住宅）遺跡群で、この火葬骨は 9 世紀の火葬骨であった。3 例目は、岡山県美作市古町（旧英田郡大原町古町）に所在する八幡山遺跡（松下、2008b）で、この火葬骨が埋納されていた蔵骨器は 8 世紀末～9 世紀前半のものと推測されており、今のところこの八幡山遺跡出土の火葬骨例がもっとも古いことになる。4 例目が熊本市の大江 63 次調査区出土の火葬骨で、これは 9 世紀後半の火葬骨である。

今回検出された火葬骨はかなり少ないが、残存していた人骨について人類学的観察をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料および所見

残存していた火葬骨（江津湖東 - III - A 区人骨）は重量にしてわずか 19g に過ぎない。そのうち頭蓋片は 6g で、四肢骨の小片は 8g、残りの 5g は四肢骨の細片である。重複部分がみられないので、この火葬骨は 1 体分の成人骨と思われる（表 1）。骨の色調は灰白色や白色で、灰白色の骨には亀裂や捻れはみられないが、白色の骨には変形や火葬骨特有の細かい亀裂やヒビがみられる。火葬骨の形態に違いがみられることから焼成温度にムラがあったことがうかがえる。

頭蓋片は 3 片しかない。2 片は 1cm ～ 2cm サイズの小片に過ぎないが、残りの 1 片は 4cm × 4cm サイズで、やや大きく、これは後頭骨の外後頭隆起部である。骨壁はやや厚く、堅牢である。外後頭隆起の発達はよくないが、最上項線はかなり明瞭である。

四肢骨片は 1cm × 2cm サイズの骨片で骨質は堅牢であるが、骨種は同定できない。

外後頭隆起の発達はよくないが、最上項線がかなり明瞭であるので、男性頭蓋かもしれないが、残存部分が少ないので、性別は不明としておきたい。また、年齢も不明である（表 2）。なお、参考までに、年齢区分を表 3 に示した。

この火葬骨と一緒に出土した越州窯系の合子は8世紀末～10世紀中頃に比定されているが、土師器碗は9世紀後半～10世紀初頭の所産とされているので、この火葬骨は9世紀後半～10世紀初頭(平安時代)に所属する火葬骨である。

表1 人骨体数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	0	1	0	1

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
ⅢA区人骨	不明	不明	残存量 19g、頭蓋片、四肢骨片

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996)を参照されたい。

要約

2004(平成16)年におこなわれた江津湖遺跡群の発掘調査で、江津湖東 - Ⅲ - A区から平安時代の火葬骨が検出された。残存量は少なかったが、人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 火葬骨の残存量は少なく、わずか19gに過ぎない。骨に重複がみられないので1体分の火葬骨の一部と判断した。
2. 残存していたのは頭蓋片と四肢骨片であるが、頭蓋片はわずか3片で、6gである。頭蓋片では後頭骨の外後頭隆起部が同定できた。骨壁はやや厚く、堅牢である。外後頭隆起の発達はよくないが、最上項線がかなり明瞭である。四肢骨は骨種を同定することができない小片である。
3. 骨の色調は灰白色や白色で、灰白色の骨には亀裂や捻れはみられないが、白色の骨には変形や火葬骨特有の細かい亀裂やヒビがみられ、様態に違いがみられることから焼成温度にムラがあったことがうかがえる。
4. 火葬骨とともに検出された土師器碗類と越州窯系の合子の古学的所見から、この火葬骨は9世紀後半～10世紀初頭(平安時代)に所属する火葬骨と推測されている。

5. 最上項線がかなり明瞭なので、男性頭蓋の可能性はあるが、残存部分が少ないので、性別は不明としておきたい。また、年齢も不明である。
6. 本火葬骨の残存量はかなり少ない。古代や中世における火葬骨は残存量が少ないが、その理由は、①分骨することが前提であった、②火葬すれば埋納量は少量でよかった、ことなどが考えられる。また、火葬という特殊な処理方法は、ある特定の身分（階層や職種）に限定されていた葬法だったのかもしれない。

《謝辞》

擲筆するにあたり、本人骨の研究の機会を与えていただいた熊本県教育委員会文化課の皆様にお礼申し上げます。

《参考文献》

1. 松下真実・他、2012a：熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群 6（春日地区第 9・10 次調査）（熊本県文化財調査報告第 274 集）：411-423.
2. 松下真実・他、2012b：熊本市二本木遺跡群（市電敷地）出土の古代人骨。二本木遺跡群 6（春日地区第 9・10 次調査）（熊本県文化財調査報告第 274 集）：398-410.
3. 松下真実・他、2012c：二本木遺跡群（春日地区第 6 次調査）出土の古代人骨。二本木遺跡群（春日地区）5 第 6 次・第 14 次調査（熊本県文化財調査報告第 271 集）：140-152.
4. 松下真実・他、2016：熊本市新屋敷遺跡出土の古代・近世人骨。新屋敷遺跡 6（熊本県文化財調査報告第 317 集）：168-184.
5. 松下真実・他、2021：熊本市二本木遺跡群第 104 次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群 30（熊本市の文化財第 102 集）：63-71.
6. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第 97 次調査区出土の古代・中世人骨。（投稿中）
7. 松下真実・他、熊本市二本木遺跡群第 105 次調査区出土の古代人骨。（投稿中）
8. 松下孝幸、1995：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。山口県埋蔵文化財調査報告第 174 集：25-30.
9. 松下孝幸、1996：土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 12 集）：24-50.
10. 松下孝幸、2005：熊本市二本木遺跡群第 18 次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群 I－第 18 次調査区発掘調査報告書一：41-46.
11. 松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑住宅）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群 II（熊本県文化財調査報告第 231 集）：80-84.
12. 松下孝幸、2007a：熊本市大江遺跡群第 97 次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群 VI（第 97 次・第 106 次調査区発掘調査報告書）：114-117.
13. 松下孝幸、2007b：熊本市古町遺跡第 5 次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第 9 号：148-152.
14. 松下孝幸・他、2008a：熊本市二本木遺跡群第 28 次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群 V〔二本木遺跡群第 28 次調査区（E-I・K・L・P 地点）発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告（2）〕：178-183.
15. 松下孝幸、2008b：岡山県美作市八幡山遺跡出土の平安時代火葬骨。八幡山遺跡・八幡山南遺跡・八幡山円明寺跡・尾崎遺跡・中町 B 遺跡・穴が辻遺跡・穴が辻古墳・今岡 D 遺跡・今岡中山遺跡・今岡古墳群・高岡遺跡（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 213）：29-534.

16. 松下孝幸・他、2009：熊本市二本木遺跡群第32次調査区L地点出土の古代人骨。二本木遺跡群Ⅷ〔二本木遺跡群第28次調査区(A-D・J・M-O・Q・T地点)、第32次調査区(A・C-F・H-J・L・N・P・Q・T地点)発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(4)〕：185-188.
17. 松下孝幸・他、2010a：熊本市二本木遺跡群第40次調査区F地点出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群ⅩⅠ(熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(5))：197-201.
18. 松下孝幸・他、2010b：熊本市二本木遺跡群第41次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅡ—二本木遺跡群第41次調査区発掘調査報告書—：127-135.
19. 松下孝幸・他、2011：熊本市二本木遺跡群第50次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅥ—二本木遺跡群第50次調査区発掘調査報告書—(熊本市の文化財第10集)：67-75.
20. 松下孝幸・他、2012a：熊本市二本木遺跡群第31次調査区出土の人骨。二本木遺跡群17(熊本市の文化財第17集)：158-162.
21. 松下孝幸・他、2012b：熊本市二本木遺跡群第49次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群19—二本木遺跡群第49次調査区発掘調査報告書—(熊本市の文化財第19集)：77-84.
22. 松下孝幸・他、2012c：熊本市二本木遺跡群(さつま荘跡)出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告第274集)：424-435.
23. 松下孝幸・他、2013：熊本市新屋敷遺跡出土の古代人骨。新屋敷2(熊本県文化財調査報告書第286集)：140-154.
24. 松下孝幸・他、2015：熊本市桑鶴遺跡群出土の平安時代火葬骨。桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡(熊本県文化財調査報告書第308集)：217-222.
25. 松下孝幸・他、2016：熊本市大江63次調査区出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群12(熊本市の文化財第60集)：71-81.

※ Takayuki MATSUSHITA、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

※※ Masami MATSUSHITA、特定非営利活動法人・人類学研究機構



頭蓋片 (The cremated fragment of skull)



四肢骨 (The cremated limb bones)

江津湖遺跡東 - III - A 区人骨 (性別・年齢不明)

(The skeleton III A from the Etsuko sites, sex and age are unknown)